

酪農における暑熱対策について

近年、夏の暑さが厳しさを増す中、暑熱対策として牛舎での送風機利用は当たり前のこととなっています。送風は「牛体に直接風を当てること」がポイントですが、農場によっては送風の効果が発揮できていない事例も見られます。畜産技術センターでは、牛舎内の環境測定を行い、効果の確認や改善の提案を行っていますので紹介します。

まず牛舎内の複数箇所で風速を測定、その結果によって色分けし、畜舎内の地図として「見える化」して、温湿度の測定結果と合わせて提示します。これにより、畜舎内で風速が不足している、湿度が高いなど条件の悪い牛床が明らかになるため、分娩前後など高ストレスの個体の配置や送風機の増設などの参考にできます。また、条件の悪い牛床に配置された個体に対しては、床置きを送風機を置く、散水などで牛体を直接冷やすといった対応を提案しています。

図1の事例では、牛の頭側の風速が不足していたため、送風機の角度を調整した結果、牛房全体に風が行き渡るようになりました。

自身の牛舎の環境を知りたいといった要望がありましたら、普及指導課までご連絡ください。

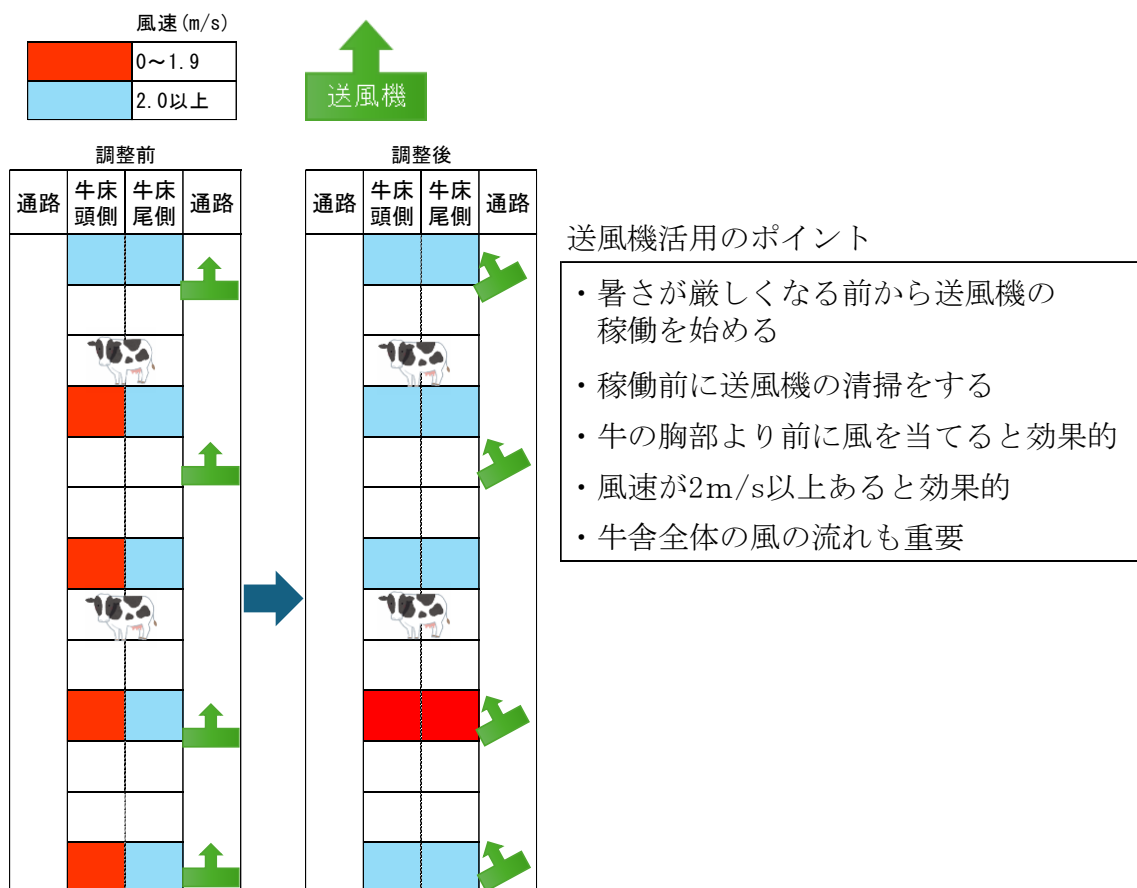


図1 送風機の角度調整前後の風速の違い

※牛床から1mの地点、頭側尾側の2か所で測定